

入選

うれしい気もち

長野県 米沢小学校 6年 樋口 葵衣

この犬、どこから来たのだろうか？

それは、六年生になったばかりの春の休日のことでした。バドミントンをしようと思い、外へ行きました。そしたら、私の両手にのるくらいの小さなしば犬が迷いこんできたのです。私はびっくりしました。それと同時にこまりました。知らない犬だったのです。

その犬は、しばらくしばふの上を行ったりきたりしていましたが、急に止まりました。どうしたんだろうと思い、見てみると、犬はねていました。私は犬がちょっとかわいそうになってきたので、飼い主探しをすることにしました。

私はその犬をダンボールに入れ、近くの家をたずねてまわることにしました。ですが、犬はびくびくしてなかなかダンボールに入ってくれません。ダンボールに入っても、こわがって飛び出してしまいました。やっとおとなしく入ってくれたときには、お昼を過ぎていました。

そして一軒一軒たずねてまわりました。

「この犬の飼い主さんですか？」

と五軒くらいまわりましたが、どの家も、

「いいえ。ちがいます。」

という返事でした。私はあきらめかけましたが、最後にもう一軒だけまわりました。

「この犬の飼い主さんを・・・」

と言っていると、中で、

「あーら！ 私の犬よ！ どこに行ったのかと探していたの。」

と、飼い主が見つかったのです！ 犬はしっぽも上がって、うれしそうでした。その様子を見て、私もなんだかうれしくなってきました。帰ろうとすると、飼い主さんが涙を流して、

「ありがとう。」

と言ってくれました。

飼い主さんは、犬がいないとわかったとき、とてもショックで言葉も出なかったと思います。見つかったときはすごくほっとして、犬がもどってきたときにとてもうれしかったのではないかなと思いました。私は、その様子を見てさらにうれしくなりました。

私はそのとき、一つわかったことがあります。それは、親切にした人も、親切を受けた人もうれしい気もちになることです。

そして、これからも犬だけでなく、たくさんの人に小さな親切をして、うれしい気もちにしてあげたいです。